

## 国産材製品の生産拡大に向けた取組事例

### ○事業者間で連携した生産能力の増強

- プレカット事業者が、輸入材不足を機に、地域の製材工場から未乾燥材を仕入れて加工し、国産材比率を高めることを目指し、乾燥機を新規導入
- 素材生産事業者や製材工場等からなる協同組合が、プレカット事業者と国産材安定供給について意思疎通を行った上で、乾燥機の新規導入を決定



木材乾燥機(イメージ)

上記の事例以外にも、全国的に各製材工場等が工場の稼働率を上げるなど、国産材の建築用部材の増産に尽力しているところ

## 国産材製品の利用拡大に向けた取組事例

### ○業界団体による事例の周知等

- プレカット事業者や設計事務所などからなる業界団体が、輸入材が多く使われる横架材等を国産材に代替する場合の工夫点などを周知
- あわせて、国産材を活用した設計の手引書を作成し、講習会等による普及を予定



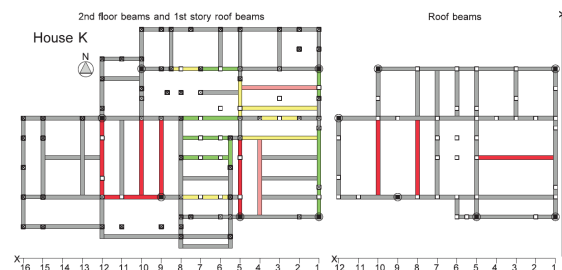
講習会パンフレット

### ○各メーカーによる設計変更の提案

- プレカット事業者や建設事業者から、施主に対して国産材を活用した設計変更の提案

### ○有力メディアによる国産材利用の参考事例紹介

- 「日経クロステック」において、梁にスギの無垢材・集成材を用いて設計した実事例や、森林総合研究所の研究成果を引用し、国産材の横架材としての活用に関する情報を紹介



記事で引用している森林総合研究所の研究成果より。曲げヤング係数の低いE55のスギ材で構造計算しなおした結果、NGとなった梁(赤い部分)は276本中8本のみであった。

参考：日経クロステック「ウッドショック対策、国産材はどこまで梁に使えるか」2021.7.29  
 (https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00154/01263/)
   
参考：青井秀樹ほか 木材学会誌 Vol.56, No.3, p.160-171(2010)